

渋谷悠 初監督作品

美晴に傘を

心の雨を、言葉にかえて――

升 毅 田中美里 日高麻鈴
和田聰宏 宮本凜音 上原剛史 井上 薫 阿南健治

脚本・監督：渋谷 悠
プロデューサー：大川祥吾 渋谷真樹子
撮影監督・共同プロデューサー：早坂 伸 (JSC) 助監督：西 貴人
照明：オカザキタカユキ 録音：寒川聖美 ヘアメイク：岩鎌智美 原早織 (Kleuren)
音響効果：吉方淳二 編集：小堀由起子 音楽：土井あかね
制作プロダクション：アイスクライム キアロスクーロ撮影事務所
配給：ギダリーボックス

© 2025 牧羊犬/キアロスクーロ撮影事務所/アイスクライム

伝えられなかった想いはありませんか？
その想いに耳を澄ませた時――生まれかわる、家族の絆。

喪失を乗り越えた先に光る、 絆と癒しの涙――

これは、君が嫌いな音を柔かくしてくれる屋根だ
これは、この世のあらゆる嘘から身を守ってくれる翼
これは、誰とも目を合わせなくてよくなる臉
これは、君に失敗が降りかからないようにする天井
そしてこれは、君を傷つける言葉を跳ね返す盾だ
美晴ちゃん、どれが欲しい？

STORY 北の小さな町の漁師である善次（升 毅）は、喧嘩別れをしてから一度も会っていない息子の光雄（和田聰宏）をがんで亡くす。東京で執り行われた葬儀にも出席せず四十九日を迎えようとしていたところに、光雄の妻の透子（田中美里）が娘の美晴（日高麻鈴）と凛（宮本凜音）を連れて、善次の元を訪ねてくる。

善次は、突然の訪問に戸惑い、うまく接することができないが、彼女たちを通して亡き息子に想いを馳せる。透子は、聴覚過敏を持つ自閉症の美晴を守るのに必死だ。

「もう自分しかない」という決意は、夫である光雄が亡くなってから更に強まっている。

美晴は、守られてきた世界から一步でも外に踏み出したいと願うものの、失敗したり不安を感じると、布団を被り夢の中に逃げ込む。そこは、父の光雄が生前病床で書いた『美晴に傘を』という絵本の世界であった。

やがて、小さな町の人々との交流も手伝い、善次、透子、美晴は、自分自身の内なる声に耳を傾け始める。

言葉が心を紡ぐ、家族再生の物語

INTRODUCTION 『底なし子の大冒険』『狼少年タチバナ』などで知られる劇団牧羊犬を主宰し、短編映画では国内外の数々の賞を受賞してきた渋谷 悠の初長編作品。家族の再生という、映画では幾度となく語られてきたテーマを新鮮な物語へと昇華させ、魅力的な登場人物たちが観る者を心地よく包み込む。主演には、息子を亡くし後悔の波に溺れる漁師・善次に升毅、言葉少なに圧倒的な存在感を見せつける。障がいを抱える娘を懸命に守ろうとする母・透子の心の機微を田中美里が繊細に演じる。聴覚過敏によって聴こえてくる様々な音を擬音語に変えられる才能を持つ美晴役には『麻希のいる世界』主演の日高麻鈴が挑んだ。その他、和田聰宏、宮本凜音、上原剛史、井上薫、阿南健治らが脇を固める。



©2025 牧羊犬/キアロスクロー撮影事務所/アイスクライム 2025年作品/カラー/上映時間：2時間3分

X @miharunikasawo @miharunikasawo



最新の
公開情報は
こちらから▶

